

北九州地区(設備工事)

## 株式会社ダック技建

## 関係先への感謝と信頼の置ける技術が受注力の源泉

当地区業界トップの受注力を持つダック技建。企業成長の源泉を尋ねると、徳永代表は「人との縁や感謝の気持ちに加えて、日々の技術向上が大切」と明確に答える。今日では、全国規模のゼネコンから地場ゼネコンまでに幅広い受注活動を繰り広げ、プラント系を除いた構造物の設備工事では当地区トップの地位にあるが、これまでの道のりは順風満帆であった訳ではない。

ダック技建の発足は1999年、業界内ではいわゆる後発業者である。「駆け出しの頃は資材調達に困った事もありました。そうした時に支援していただいた関係先の方には今でも感謝の気持ちで取りさせてもらっています」と創業当時を振り返る。「今でも当時の事は忘れていません。感謝の心がダック技建の原点です」と徳永代表。そうした仕入先の整備に加え、徐々に持ち前の営業力を発揮、平成20年7月期までに8期連続増収を達成し、売上高は10億円を突破した。

業界全体を揺るがした改正建築基準法やリーマンショックが重なった際には後退局面に転じた時期があったものの、ゼネコン筋にとどまらず各方面への営業攻勢によって、平成25年決算期では再度、年商10億円を突破。平成25年後半から現在までの受注状況は最盛時の活気を漂わせ、平成26年決算期も売上増が期待されている。そうした受注環境の変化の波が訪れたなかでも、徹底して継続してきたことがある。それが「人への感謝」と「技術向上」へのたゆまぬ努力だ。

入社7年目となる専務取締役の手柴恭一氏は大手サブコン出身者で定年退職した後、徳永社長の熱いオファーでダック技建に入社した。「手柴専務の経験と技術を見習ってほしい」とダック技建では毎週のように手柴専務による技術講習を開いている。「技術力は信頼の証です。それが継続的な受注に繋がっていくものと信じています。20代の若手社員から業界ベテラン社員まで均衡がとれた人員体制が整いました。経験豊富な技術者から若手への継承が必要」と徳永社長。社内全体は好調な受注振りから自然に活気が満ち溢れ、「人への感謝」と「技術向上」による徳永イズムで更なる企業成長への期待は大きい。



徳永明彦代表(中央左)



若手社員

代表者名 徳永 明彦  
 所在地 〒806-0067  
 北九州市八幡西区引野 2-5-6  
 電話 093-645-3233  
 F A X 093-645-3231  
<http://duckgiken.co.jp/>